

Press Release(H28/11/)

整備事業「糸貫川 清流平和公園の水辺」が土木学会デザイン賞優秀賞を受賞
—本学 原田守啓准教授が設計協力者として貢献—

本学流域圏科学研究センターの原田准教授が設計協力者として参画した都市公園の整備事業「糸貫川 清流平和公園の水辺」が、土木学会デザイン賞（※）優秀賞（2016）を受賞しました。

本事業は、地域住民の憩いの場となる自然と触れあえる空間を創出することを目的として、国の「かわまちづくり支援制度」を活用して行われた公園整備事業で、岐阜県と北方町が事業主体となり、岐阜県本巣郡北方町高屋にある「清流平和公園及びその水辺」を整備したものです。

本学の原田准教授はこの事業の設計協力者として3年ほど前から関わり、事業の遂行に大きく貢献しました。

この「糸貫川 清流平和公園の水辺」が、このたび土木学会デザイン優秀賞（2016）を受賞しました。

【概要】

糸貫川の水辺に整備された「清流平和公園（岐阜県本巣郡北方町高屋）」は、北方町が土地区画整理事業に伴って整備した都市公園です。公園敷地は、岐阜県が管理する糸貫川の河川区域から隣接する敷地へとまたがっており、本事業は、河川管理者である県による河川整備と、町による公園整備を協調して行う「かわまちづくり事業」によって整備されました。



現在の清流平和公園の遠景

本事業の特徴は、河川と公園との境目を無くし、一体的な空間を形成したことです。これを実現するために、既設護岸の一部区間を撤去し、階段状であった地形をなだらかな緩傾斜へと処理しました。さらに、せせらぎ状の水路を、公園から川へと利用者を誘導する仕掛けとして配置することにより、公園利用者が自然に水辺へと誘われる動線を形成しました。配置した東屋、ベンチから

は、公園から水辺に至る広々とした空間を一望でき、小さな子供をもつ母親らも、安心して子供たちを遊ばせることができる空間であることを大切にしました。大人は芝生に寝転がり、小学生はタモ網をもって川で魚とりをしているような水辺の公園を実現しました。

整備前の当地は、糸貫川に沿った広い高水敷に草叢が広がっており、その敷地は、低水路、高水敷、地盤が高い平地と、それらを隔てる護岸、法面によって、三段に分断されていました。

当初の計画では、河川と公園の管理境界を明確にする意図もあり、元の地形をそのまま用いた設計となっていました。清冽な水が流れる糸貫川に面した土地の可能性を最大限引き出すため、「水辺をまちにひらく」ことをコンセプトに掲げ、河川と公園の空間の一体化を意図した計画へと、大幅な方針転換を図りました。

このコンセプトを実現するためには、河川管理上の技術面・制度面での複数の課題をクリアする必要があります。特に既設護岸の撤去、河川内への植樹にあたっては、洪水時の流れの数値計算による安全性の検討や、撤去後の維持管理に関する責任の明確化の必要がありました。

本学原田准教授は、特に技術面の課題について、科学的根拠に基づいた検討を重ね、本事業の遂行に大きく貢献しました。

(※) 土木学会デザイン賞（優秀賞）

土木学会デザイン賞は公益社団法人土木学会景観デザイン委員会が主催する顕彰制度で、2001年に創設されました。広く土木構造物や公共的な空間に関する計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品およびそれらの実現に貢献した関係者や関係組織の顕彰を行っています。



整備前の様子



水路では小さな子供も安心して水遊びができる

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学総合企画部総務課広報係 吉田

TEL : 058-293-3377

E-mail : kohositu@gifu-u.ac.jp